

宿縁

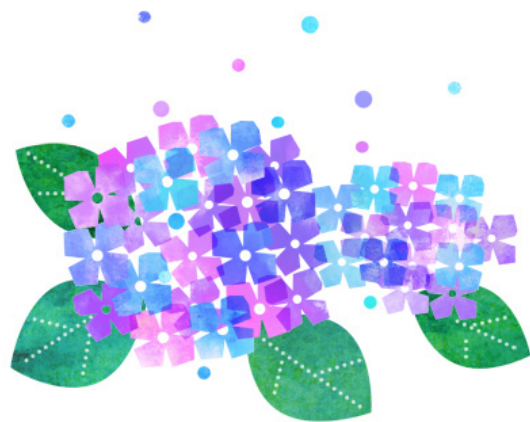
六月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺

TEL 0477-372101
FAX 0477-372102

あなたの子育ては

おんぶか 抱っこか



今、赤ちゃんをおんぶしている母子の姿はめったに見ません。ところが、昔から行われてきたおんぶによる育児方法はさまざまなメリットがあるからとして、再び注目されていることをテレビで取り上げていました。

ひとつには、抱っこ紐で視界をさえぎるよりも、おんぶ紐で赤ちゃんの視界を広げること、脳を十分に刺激するということ。人間は「視覚」から、多くの情報を得るので視覚はとても重要な機能なのです。また背負う人と同じ視点からみることができるので、知的

好奇心がわくと同時に、お母さんの行動を「まるで自分が行ったことのように感じる」ことができるということです。

さて、近頃の誤ったものの考え方はおんぶ紐から抱っこ紐の育て方に代ってしまったことに起因するという見方が出来ます。人間は二歳児、三歳児までの環境がその人の人生を支配するといわれます。

親と子が同じ方向を見ないというのは、教えることも、一緒に考えることも拒否した、「自分勝手にいいのよ」という世界をはじめから作り上げているようなものです。

人生のスタートから親子は分断と断絶の道をすでに歩み始めていると思うと背筋が寒くなります。同じ視野を共有することによって、話しかけたり教えたり問うてみたりするところに成長があるのでしょうか。「背負(お)うた子に教えられ!」という古くからの諺があります。まさに日本人の「共育」を表したすばらしい諺です。

「視覚」の発達は、お母さんと同じ目線で猫ちゃんやワンちゃんや小鳥たちを追い、きれいな草花を覗くは情操観念を育て、またお月様やお星さまを見て遠い宇宙に思いを馳せることができます。

「聴覚」の発達は、目を閉じていても風の音や波の音を聞いて、音の響きを感じ取る五感を養うことができます。視聴覚の教育は何も特別な場所に行かな

くても実行できるのです。

親が口にする「なんまんだぶ」こそが金言で、その響きこそ人間成熟への道です。

親鸞さまは「南無阿弥陀仏(なんまんだぶ)」を称えることの意味は、阿弥陀仏のかわらぬ生きとし生けるものすべてを真実の世界に生まれさせるとの願いとはたらきが、「仏さまが保ちやすく称えやすい南無阿弥陀仏の名号を考え出してくださって、称えるものを救うと約束なされた」(歎異抄十一章)と示されています。このことは誰もがいつでもどこでも南無阿弥陀仏と称えられ、阿弥陀仏のご恩を深く心中に忘れぬように六字の言葉に仕上げてくださったので、人間の聴覚に合わせて音と響きを伴った仏さまの言葉だということ。

ブツダ釈尊が阿弥陀仏の救いのまことを説かれた仏説無量寿経に「正覚大音響流十方(しょうがくだいおんこうりゅうじつぽう)」とあり、「名声超十方(みょうしやうじやうちょうじつぽう)」(正信偈)とあって、仏さまは名号(南無阿弥陀仏)という声となつて、音となつて、十方世界に響きわたっていると説かれています。

親が称える「なんまんだぶ」は背負う赤ちゃんの耳に、音の響きとなつて背中のぬくもりを通して伝わっていくのです。今般は何事も饒舌な時代です。言葉があふれ、物事には過剰すぎるほどに説明が付されていますが考えものですね。

仏教詩人の坂村真民さんは、「一字一輪」という作品で、「字は一字でいい 一字にもる力を知れ 花は一輪でいい 一輪にもる命を知れ」。そしてやはり詩人であるま

どみちおさんは「世の中には『?』と『!』があればいい」という言葉を残しています。とりわけ、人は驚きや感動に直面したときほど、言葉は短く、シンプルになつていくのかもしれません。

先日母の実家の叔母が亡くなって参った折、お手継ぎのご住職が書かれた次の文章に出会いました。

『「人生には二度の生まれがある」というのが仏教の考え方です。単に生物として命の終わりを恐れ、そこに執着しようとしては、生老病死の苦しみを克服することはできません。世の中で起こる全てのことには仏様から「させていたただいた」と捉えます。決して自己の手柄ではなく、大いなる力によってそうさせてくださったという謙虚な心を持つのです。仏教では「自然法爾(じねんほうに)」といえます。「私は間違いない、みんなが間違っている」と自己にこだわる様は、「我執」と表現されます。自己にこだわっているのは、淋しさや悲しさから逃れることはできません。この我執から脱却するためには心を翻すことを意味する「回心(えしん)」に至らねばなりません。回心はよくチョウに例えられます。単なるこの世にある一つの命だけにこだわれば、地面にはいつくばる青虫から成長できません。回心することで、羽を得て、自由に空を飛べるチョウへと成長し、二重の命を捉えることができるのです。二重の命とは、一つが生物としての命、もう一つが死の先にも続く永遠の命なのです。』

「なんまんだぶ」を称えるところ、永遠の命からの響きと如来の呼び声が伝わるのです。

【寺灯雑記】

○新聞に載った懐かしい記事から

福島道宏さん

『炎天下六貫余のリック背負って 全国を歩く大学生』
— 地方新聞に掲載 —

歩いて全国一周を試みている東京の一大学生が四日夜田辺を訪れ、市内今福町勝徳寺に宿泊、五日朝元氣よく御坊市に向った。

この大学生は日大商学部二年福島道宏君(一九)―東京都台東区谷中初音町四の一〇―で伊豆歩破に次ぎ去る二十二日夜、列車で東京を出発、三重県津市から紀伊半島一周の旅にはいり伊勢、鳥羽を経て本県に入り十四日目の四日田辺市を訪れたものだが食料など必需品の入れた約二十四キロのリックを背負って炎天下の焼きつく海岸道路を、はるばる歩いてきたもの。

同君は更に歩き続けて全国一周する予定だが忍耐と体力を鍛えるため“自炊”“無乗車”の方針でのぞんでいるという。
顔や手足はたくましく青銅色に日焼けしており全国歩破の実現にはりきっているが当地方の印象について「第一思ったより道の悪いのに閉口しました。三重県の人々は非常に親切であったが和歌山に入って薄情をよく身に受けた。特に白浜の人々は金にあくせくしているような感じで冷たく腹立ちした。だが田辺にきて温かい感じをうけ元氣をとりもどした。白浜は排他的であり大いに地元の人々は考えるべきではないかと思っている…」と語っていた。

○お仏具磨き、清掃奉仕に汗

5/5

年2回行われているお仏具磨きと境内、客殿などの清掃に今回は40名ほどがご奉仕くださいました。

毎年今頃は裏山でタケノコが採れてお昼にはタケノコご飯が振る舞われていましたが、今年は収穫時期が早くなってしまったためにタケノコなしで、ちよつと残念！

○婦人会で趣味の講座

5/5

午前中の清掃奉仕作業のあとに午後から婦人会の趣味講座が開かれ、みんなで楽しく折り紙を用いた額縁に入った金魚を製作しました。それぞれが工夫を凝らして仕上げた金魚のモビールは、夏らしい可愛い姿の出来栄でした。

○夏のFPパーティー実行委員会開く

5/5

今年7月29日に開催される恒例の「門信徒ファミリーパーティー」企画実行委員会が召集され、催し物や内容などが検討されました。

第1部では三遊亭歌奴さんの落語とママさんコーラスの出演が決まり、近隣の方々にも呼び掛けて賑やかな輪を広げることになりました。

みなさんもお子さんが夏休みに入る時期でもあり、今から予定をしておご家族そろってのご来場をお待ちしています。

各種模擬店やゲーム等でお楽しみください。参加費は成人一人1千円

○宗祖降誕会と永代経法要が勤まる

5/20

爽やかな夏空が広がって、行事鐘が打ち鳴らされるなかを午前11時から婦人会会員による献灯・献華に始まって親鸞聖人降誕会法要が厳かに勤められました。また昼食後は門信徒総永代経法要が大勢の参拝者と共に勤まりました。

ご講師の武蔵野大学名誉教授のケネス田中先生は、午前に「親鸞聖人の人間らしさ」、午後には「慈悲のご縁に気づきましょう」と題し、レジュメやプロジェクターを使って、世間における目的と仏道における目的の違いについて、とてもわかりやすくお話しされました。

○千葉組仏連盟総会に参加

5/23

四街道の見真寺を会場に千葉組の仏教壮年会総会と研修会があり当寺より4名が出席しました。

総会では前年度の事業報告や決算報告があり、今年度予算の承認と主な事業計画では秋に茨城方面の親鸞聖人ご旧跡寺院参拝の一泊研修が予定されました。

○天候に恵まれたご旧跡参拝旅行

6/3~4

梅雨のはしりりの時期とは裏腹に1泊2日の門徒親睦旅行は二日間とも夏空の快晴に恵まれました。

一行30名は朝8時半に市川を出発、東北道へ磐越道の長距離バスとなりましたが越

後の七不思議が伝えられる梅護寺(珠数掛けの桜、八房の梅)を参拝しました。二日目は大谷派寺院の無為信寺(親鸞聖人門弟の無為信房開基)を参拝しました。

越後は親鸞聖人が承元の法難によって配流となりその後関東に向われるまで六年間ほど過ごされた因縁深い土地。往時のお姿の一端に触れた思いがしました。また宿泊は月岡温泉ホテル泉慶にて大いに親睦を深めることができました。

【法座・行事案内】

○子育てサロン(パンダっ子)

六月十一日(月) 十一時~二時

子育て中のお母さんや乳幼児が集まって一緒に団らん、たくさんの玩具の中でのびのびとした輪が広がっています。

○常例法座

六月十七日(日) 一時 講師：住職

○グラウンドゴルフ

六月十九日(火) 正午にお寺へ集合
場所：立身台公園

・雨天の場合は二十六日(火)に順延
○和讃に学ぶ(正像末和讃)
六月二十三日(土) 三時 講師：前住職

○婦人会法座(七高僧の曇鸞大師)

七月七日(土) 一時

○壮年会法座(日常語になった仏教用語)

七月七日(土) 三時

○いのちの居場所を考える会

七月十日(火) 十時

【六月の掲示板のことば】
心ではなく 行動で示す